

超音波による乳がん検診の 有効性を確かめる研究

平成18年度からスタート

最近、超音波を使った乳がん検診方法が開発されていますが、その科学的な有効性はまだ確かめられていません。そこで、厚生労働省は平成18年度から平成22年度までの予定で「がん対策のための戦略研究」の課題1として「乳がん検診における超音波検査の有効性を検証するための比較試験」（J-START：Japan Strategic Anti-Cancer Randomized Trial）を行っています。この研究のリーダーは大内憲明・東北大学教授です。

研究の内容

全国各地で乳がん検診を行っている機関・団体のご協力を得て、40歳代の女性約12万人を対象に、マンモグラフィ検査に超音波検査を併用する検診と、併用しない検診（通常通りの検診）を実施します。両群の間で、検診の精度（確かさ）、利益・不利益及び有効性を明らかにする大規模な比較試験です。

検診会場で研究への参加をお願い

本研究に参加している検診機関・団体で乳がん検診を受けられる方には、その内容を説明して、研究への参加・ご協力をお願いしております。

皆様のご協力が、乳がんの克服、さらには日本のがん対策を推進します。

詳しくは、

日本対がん協会ホームページ <http://www.jcancer.jp/senryaku/>

J-START ホームページ <http://www.j-start.org/>

をご覧ください。